

## 阿南市地域公共交通活性化協議会 令和3年度 第1回会議 議事録

日 時 : 令和3年8月25日(水) 10:00~

場 所 : 阿南市役所3階 303会議室

出席者 : 阿南市 市長 表原 立磨  
阿南市 副市長(会長) 山本 俊也  
阿南市 特定事業部長 岡田 佳造  
阿南市 特定事業部理事 倉本 正樹  
阿南市 保健福祉部長 吉村 茂宏  
徳島県次世代交通課 課長代理 宮島 課長補佐  
徳島バス(株) 企画管理部 副部長 東 孝行  
徳島バス阿南(株) 取締役社長 千本 寿史  
四国旅客鉄道(株) 徳島企画部長 山本 仁志  
毎日タクシー(有) 代表取締役 畠山 頼彦  
徳島県南部総合県民局(阿南) 県土整備部部長 徳永 雅彦  
阿南市 建設部長 都築 宏基  
阿南警察署交通課 課長代理 坂本 係長  
阿南市民生児童委員協議会 会長 丹生川 和彦  
阿南市セニアクラブ 会長 吉田 忠彦  
利用者代表 小川 美紀  
四国運輸局 交通企画課課長 手島 一了  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査) 坂本 貴之  
四国運輸局徳島運輸支局 首席運輸企画専門官(総務・企画観光) 賀出 晴美  
阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 准教授 加藤 研二  
【事務局】(まちづくり推進課) 湯浅 課長、武田 課長補佐、西野 係長、  
佐野 主事  
株式会社 GPMO 山本、寺尾  
欠席者 : 伊島連絡交通事業(有) 代表取締役 神野 梅夫  
四国地方整備局徳島河川国道事務所 副所長 山本 健司

議 事 :

- (1) 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正と地域公共交通計画について
- (2) 徳島県次世代地域公共交通ビジョンと徳島県における地域公共交通の現状について
- (3) 阿南市地域公共交通総合連携計画における重点施策の対応状況と評価・課題について
- (4) ご近所ドライブパートナー事業について
- (5) 阿南市における交通事業者の現状について
- (6) 阿南市地域公共交通計画策定に向けた論点整理について
- (7) 地域公共交通に関するアンケート調査について

資 料 :【配布資料】

- 資料 1 地域公共交通活性化再生法について
- 資料 2 次世代地域公共交通ビジョンに基づく取組み
- 資料 3 阿南市地域公共交通総合連携計画の重点施策について
- 資料 4 阿南市地域公共交通計画 論点整理メモ
- 資料 5 第 1 回阿南市地域公共交通活性化協議会  
阿南市地域公共交通計画～都市及び公共交通の現況～
- その他資料 阿南市地域公共交通総合連携計画【概要版】  
令和 3 年度阿南市ご近所ドライブパートナー事業について  
循環バス（ナカちゃん号）時刻表

## 1. 開 会

(事 務 局) おはようございます。定刻になりましたので只今から「阿南市地域公共交通活性化協議会 令和 3 年度第 1 回会議」を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は本協議会の事務局を担当しております、まちづくり推進課の湯浅でございます。協議に入りますまでは私が進行役を務めさせていただきますのでどうぞ宜しくお願い致します。

なお、本日欠席されておりますのは伊島連絡交通事業(有) 神野様、四国地方整備局徳島河川国道事務所 山本様の 2 名となっております。

阿南市地域公共交通活性化協議会規約第 7 条第 3 項の規定により委員の方の過半数のご出席をいただいておりますので会議が成立していることをご報告いたします。また、同規約第 7 条第 5 項の規定により本会議は公開

として記録のため、録音させていただいておりますのでご理解のほど宜しくお願い致します。また後日会議録概要及び委員名簿を市ホームページに掲載させていただきたいと考えておりますのでご了承のほど宜しくお願い致します。

本日の協議会には表原阿南市長が出席させていただいております。会議に先立ちましてご挨拶をさせていただきます。宜しくお願いします。

## 2. 市長あいさつ

(表原 市長) 【市長あいさつ】

<委員紹介>

(事 務 局) 【委員紹介】

【資料確認】

それではこれから協議に入りますが、今会議の議長につきましては規約第7条第1項によりまして会長がこの場の議長を務めることとなっておりますので、山本副市長よろしくお願ひいたします。

## 3. 議 事

### 議事 1. 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正と地域公共交通計画について

(山本副市長) それでは早速でございますが、議題1の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正と地域公共交通計画につきまして四国運輸局 交通企画課の手島課長どうかよろしくお願い致します。

(四国運輸局) 【資料説明】

(山本副市長) 手島課長、ありがとうございました。それでは引き続きまして、議題2の県の地域公共交通に関するビジョンについてご説明をいただいた上で、その段階で質疑応答等をしていただけたらと思います。よろしくお願い致します。

### 議事 2. 徳島県次世代地域公共交通ビジョンと徳島県における地域公共交通の現状について

(委員) 【資料説明】

(山本副市長) ありがとうございます。ここまでの説明につきまして、説明内容につきましてなにかご質問あるいは確認事項等ございませんでしょうか。

(全 委 員) 【質疑なし】

(山本副市長) それでは続きまして、議題の3番でございます。本市の計画の取り組み

状況等につきまして、阿南市特定事業部長の岡田から説明をさせていただきます。

### 議事 3. 阿南市地域公共交通総合連携計画における重点施策の対応状況と評価・課題について

(委員) 【資料説明】

(山本副市長) それでは引き続き市の取り組みについてでございますが、ご近所ドライブパートナー事業の実証運行の内容につきまして、詳しく説明をさせていただきます。本市の保健福祉部長の吉村から説明をさせていただきます。

### 議事 4. ご近所ドライブパートナー事業について

(委員) 【資料説明】

(山本副市長) 以上、本市の取り組みの実績、あるいは現状につきましてご説明させていただきましたがその点につきまして何かご質問、あるいは確認事項等がございますか。

(全委員) 【質疑なし】

(山本副市長) それでは引き続きまして、本日は本市の地域公共交通を担っていただいております交通事業者の皆様にもお忙しい中ご出席を賜っております。各事業者の皆様から現状につきましてご説明、ご報告をいただけたらと思います。まずは JR 四国山本部長よろしくお願ひ申し上げます。

### 議事 5. 阿南市における交通事業者の現状について

(山本委員) 2020 年度の決算では▲83 億円ということで、対前年でいうと 62 億円の悪化で会社発足以来過去最低の数字になっています。

輸送人員は、定期で見ると対前年比が 89.4%、定期外（切符購入）が対前年比で 51.6%となっています。阿南駅から徳島駅に限っては対前年比が 75.0%、阿南駅から牟岐駅では 70.2%、四国全体の対前年比が 63.6%になっています。

続いて今年度に入って第一四半期が終わりました。鉄道収入は前年よりは多少改善したものの、2019 年度のコロナ以前と比べると定期では 89.3%、定期外では 45.8%、全体では 46.9%となっています。定期は概ね 9 割での利用があるが、定期外はビジネス需要が大きく減少しています。それに加えて観光事業、観光需要も減少しています。

現在の取組はコロナ感染症対策として、業態別のガイドラインに沿った形で、例えば手指消毒用のアルコール、消毒液の設置、駅や車両に飛沫防止用のアクリル板の設置、主要駅の列車の混雑状況をお知らせしてご利用のお客様になるべく混雑を避けていただくようにしています。ハード対策では非接触型のアシストマルスを導入しました。例えば牟岐線の関係でいえばデジタルサイネージの取り換えをすることによってこれまでできなかった音声対応とか多言語対応を実施しています。また、社員の日々の体温測定、職域ワクチン接種の推進を行いました。道路交通と同じで、列車も鉄道信号によって列車が動くため、信号を扱う者が感染してしまうと一緒に仕事をしている者が2週間の待機期間を命じられると、一発で列車が動けなくなる事態が想定されています。感染防止対策をしっかりとすることで利用のお客様の列車の運行をしっかりとやっていきたいです。

あと利用促進として、牟岐線については2019年3月にパターンダイヤを導入し、コロナ以前からいえば全体が下がっているなか、堅調な利用実態がありました。

現在の課題としては、コロナ禍の中で公共交通が必要以上にマイナスイメージを被っていると感じており、その払拭とともに回復定着化を図りたいです。

(山本副市長) 山本部長、どうもありがとうございました。それでは続きまして徳島バスの東副部長お願いいたします。

(委員) 2020年度の実績として、路線バスの対比2019年度比率は60%です。5月に休校等があり、かなり痛手を被ったが、徐々に回復はしてきたが、結局60%くらいまでしか回復せずに今ずっと推移しています。

定期券とそれ以外はJRと同じ比率で、定期券は学生が利用し9割近く回復している。現金比率が5割前後で収まっています。

高速バスは30%くらいで推移しています。貸切バスは変動が大きいですが、7月は50%くらいまで回復したが、8月はまた40%切る状況で推移する見込みです。

利用促進として、去年徳島県から手厚い奨励金をいただき、1日乗車券オールフリー化、サイネージの設置を行いました。スマホでも1日乗車券が購入できるようになっています。デジタル化を進めています。ちなみに一日乗車券のオールフリー化は元々500円区間と縛りがあったが、それを撤廃しました。実施前と比較すると、20倍近く増加し、安値だったのかも

しれないが人気商品になりました。また、一日乗車券のオールフリー化のデジタル版（スマホ版）を発売しています。

（山本副市長） 東副部長、どうもありがとうございました。続きまして徳島バス阿南の千本社長よろしく申し上げます。

（委員） 昨日の取締役会で各役員に説明した数字を報告します。3月決算の2019年と2020年を比較し、乗合は基本的に25%下がりました。4人に1人お客がいなくなったという状態になり、非常に壊滅状態です。また2020年4月から6月と2021年の4月から6月を比べると25%下がったところから更に、約3%、10%、13%下がりますますます厳しい状態になっています。

収入はどんどん下がっているが、経費は増えました。例えば消毒薬です。お客様がコロナにかかり、乗車していたと県から報告があれば社内消毒しました。今まで購入したことがないものを購入し、その分経費が増えました。また、今ガソリン代がどんどん増えています。当社のバスのガソリンは軽油だが、去年の購入単価と比べて23円も増えています。自家用車は1ℓあたり10から18kmくらい走ると思うが、バスは3kmくらいとなり、23円も上がると経費増になっています。

先ほどJRもおっしゃっていましたが、運転手がコロナにかからない体制を作るためにマスクの着用、換気や消毒を行っています。最近では抗原検査キット・PCR検査キットを購入しました。コロナ感染の影響で今後、間引き運行のときにどうするべきか阿南市と協議中です。

（山本副市長） 千本社長、ありがとうございました。それでは最後になりますが毎日タクシーの畠山社長、よろしく申し上げます。

（委員） 私の業界も皆様と同じように人手不足が問題になっています。私の会社に60歳以下の従業員は1人しかいません。あと全員60歳以上で70歳超えている人が4、5人います。ただそういう人たちが今の私たちの業界を背負って引っ張って行ってくれています。当社は5年先は見えても10年先はもう見えない状況です。人が育たないです。運送会社の社長と話す、従業員を募集したら結構来てくれると、おっしゃっていたが、当社は一番新しい人の入社が5年前でそれ以降新人はいません。タクシー業界は人が育たないです。だから早くしないとタクシー業界は人手不足で廃業になります。

現在、需要と供給のバランスが崩れていて、需要でお客様はいます。コ

コロナ前と比べて半分になったがお客様はいます。だからそのお客様のためにも維持していかないといけないと思うが、もう限界にきています。

当社はコロナより前のリーマンショック以降ずっと右肩下がりです。どのようにすれば若い人がタクシー業界に入ってくれるのかはまだ結論が出ていません。ある業者に言わせたら、普通免許取得3年後に2種免許を取る期間を3年から2年に変更するのはどうかと意見があったが、それでも私は来てくれないと思います。当社の基本料金が580円で富岡西高から阿南駅まで来られます。580円はタクシー業界から見れば安いですが、LPガスもこの1年半で1.5倍になりました。徳島バスが苦しいように当社も苦しいです。保険に入ると毎月十数万かかります。当社の従業員も一生懸命頑張っています。売り上げが半分になって、給料が半分になったが、従業員は勤めてくれています。会社自体は手をあげる一歩手前です。徳島県下のタクシー業者はこのコロナのおかげでほとんどの事業所は半分以下になっていると思います。コロナのせいにはしたくないですが、何か私たちの業界に新風を送ってくれるような策はないでしょうか。私は逆にそれを聞きたいです。

(山本副市長) 畠山社長、どうもありがとうございました。今それぞれの交通事業所の皆様からコロナの影響により厳しい経営への影響、あるいは構造的な人手不足による厳しい経営状況等、切実なお話もいただきました。ここまですべて全体の説明・報告を踏まえまして、なにか改めてご意見、ご質問等ございませんでしょうか。せっかくの機会でございますのでぜひとも積極的に。なんでも結構でございますのでご質問、ご意見をいただければと思いますが。

(四国運輸局) オブザーバー的な立場で出席している身ですので、発言については参考扱いで聞いてください。事業者の厳しい実情というのは、他地域でもいろいろ伺っています。タクシー業者は先ほどの人手不足について、四国管区内もそうですが、おそらく全国のタクシー事業者は、ほぼそのような状態になっていると承知しています。一家経営のようなタクシー事業者がどんどん廃業されているという実情、それによって交通空白地ができている実情も把握しています。なかなか待遇がよくなると人も集まらないけれども、そもそもタクシー事業自体がなかなかもとよりそれだけの収入益があげられていない状況で厳しい状況に陥っていると考えています。地域旅客輸送サービスとしての一員を担っているバス事業者、タクシー事業者

は、ある意味経済的には非効率的なサービスを提供している中で社会交通インフラとしていろいろなサービスを提供しているのが現状です。それを協議会、本計画に地域旅客運行サービスとして位置づけ、それから必要に応じて積極的な役割を与えていくことを検討してほしいです。地域によってはタクシー事業者が、一部受託して地域のニーズのある運行を担っていたり、タクシーチケットを配布し利用促進を図っている地域もあります。

話は変わりますが、コロナ関係で8月20日内閣府から「地方創生臨時交付金」の事業者支援分の追加配分が公表されました。実は今年度の初めに各県の方には配分のお知らせがあって全国に3千億配布になりましたが、今回は追加配分が3千億で各県に2千億、各市町村に千億配分があります。おそらく徳島県では10から20億くらいの交付があります。阿南市であれば何千万もしくは1億くらいの配布になります。ぜひ積極的に交通事業者への活用を促してほしいです。すでに徳島県が非常に臨時交付金については積極的に活用いただいております、これまで三密回避運行への支援、密を回避し運行本数を増やしそれに対して支援することで供給側の経費を減らしたり、ポストコロナに向けて交通様式を確立させるための支援メニューに率先されたり、プレミアム交通券は一部臨時交付金が活用いただいていると伺っています。そういった形で交通事業者の欠けている需要分をうまく組み合わせただけだとは思っています。臨時交付金の締め切りは9月中旬に一度簡単な締め切りがあり、最終的には10月の初旬に申請期限となっていますので、市内の方で事業者と情報共有いただきながら支援メニューの組成をご検討いただければ幸いです。

(山本副市長) はい。ありがとうございます。手島課長からご説明いただきましたお話につきましてはこの協議会の重要なテーマであるとともに市としてもコロナ対策として取り組むべき課題と捉えてございます。いろいろ検討して参りたいと思います。ほかにございませんでしょうか。

(委員) いろいろ大変なお話を聞いて抜本的に考えないといけないなと数年前から思っていますが、方法は多少なりともあると思います。数年前くらいから全国的な問題になってきているので、研究者と様々な案を出し、一つの案としてサブスクリプションがあります。ある研究者が全国の事業者に聞いて成り立つか成り立たないかを計算をし、一応成り立つとなりました。月に数千円払えばバス乗り放題でやってもいいのではないかという案もあります。実際に公共交通の赤字を市の税金で払っており、市民の方から税



金を集めてバスを運行していることを考えれば、「バス乗り放題の形で乗らないと損ですよ。」というくらいのことをやってもいいと思います。ただ市民の方は安く、市外から来た人はちょっと値段が高くなりますが、そのような料金設定もあると思います。

あと、私が専門的に研究しているモビリティマネジメントについてですが、ここまで切羽詰まってくると本格的にモビリティマネジメントを実施する必要があると思います。一つ考えられるのは「第1回阿南駅周辺まちづくりビジョン検討会議」でも話しましたが、歩くことで保険代が下がる仕組みです。1日1万歩くらい歩いてもらうと保険費が1日600円くらい削減できることがわかっているため、公共交通を使うと今まで車で移動していた人が基本的に歩くことになり、1日8,000歩くらい余分に歩き、そこで浮いた保険代をいろんなところに回せるようになります。また給料に上乗せするので歩くことを進めることもありだと思えます。

また健康増進型保険があり、1年間健康だと1か月分キャッシュバックする仕組みを皆様ご存じかと思いますが、アンケートを行うと保険代返してもらえたらありがたいし、そのためだったら車乗らないという人が結構います。そのような形で公共交通を利用すると保険代を安くする仕組みを作れば、公共交通の利用促進につながると思います。そのために何が必要かを聞くためにはアンケートの項目が結構重要で、今までみたいに「公共交通乗りますか」「乗っていますか」も大事ですが、「なぜ乗らない」「どうして乗らない」という理由を聞くことも大事で、大抵乗らない人ほど公共交通は無くならないと思っています。「自分が何もしなくても無くならないと思うから乗らない。でも無くなるのは自分のせいじゃない。」というバイアスがかかっています。乗らない人たちをいかに振り向かせるのか、変容させるかというのが結構大事で、現在の状況からいくとある程度外圧をかける方法もあり、仕組みづくりをしっかりと本協議会で構築して3年間実証実験やり、成果を示すのも一つです。本計画から数値目標を記載する必要があり、保険代がいくら減って効果があったことを示すことも可能です。社会として公共交通を含めて支えるような仕組み作りを宣言して、市民の皆様もちゃんとその心を持ってくださいねとメッセージとして伝えていく必要性はあると思います。もしよろしければアンケートのところはご協力させていただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

(山本副市長) 加藤先生、貴重なご提案ありがとうございました。また今後の議論に十分活かしていきたいと考えてございます。ほかにございませんでしょうか。

(全 委 員)【質疑なし】

(山本副市長) それでは予定の時間もだいぶ迫ってまいりましたので、今日の議論を総括した上で今後の2回目以降の議論の論点、につきまして市の方で論点整理メモという形で整理しているペーパーがございますので、またその説明もお聞きいただいて、さらにご意見を賜ればと思います。

#### **議事 6. 阿南市地域公共交通計画策定に向けた論点整理について**

(事 務 局)【資料説明】

(山本副市長) それでは今説明しました論点整理に加えまして、先ほど加藤先生からもご指摘もいただきましたが、この計画策定にあたってのアンケート調査の実施につきまして併せてご説明をお願いします。

#### **議事 7. 地域公共交通に関するアンケート調査について**

((株)GPMO)【説明】

(山本副市長) 以上、今日の議論の総括、今後の理論の進め方についてご説明もさせていただきますけれども、それも含めまして全体を通して次回の協議に向けて何かご意見、ご質問、あるいはご提言等いただくことがございましたらお願いしたいと思います。

(全 委 員)【質疑なし】

(山本副市長) そうしましたら、この場だけでなくこれ以降ですね、何かお気づきの点がございましたら市の事務局の方にご意見、ご提言を賜ればと思います。

今日予定しておりました議題につきまして以上でございます。事務局にマイクを返したいと思います。よろしく願いいたします。

#### **4. 閉 会**

(事 務 局) それでは閉会にあたりまして表原市長よりご挨拶をさせていただきます。

(表原 市長) 【市長あいさつ】

(事 務 局) ありがとうございました。以上をもちまして阿南市地域公共交通活性化協議会、令和3年度第1回会議を終了させていただきます。本日はご協力ありがとうございました。

以上

「会議状況」

